

青森県素人アイスホッケー協会

アイスホッケー 競技規則

2011年10月改訂版

著作：青森県素人アイスホッケー協会 審判部

2011/10/25

目 次

はじめに (5)

第1章 アイスリンク (5)

100条 アイスリンク (5)

112条 ブルーライン (5)

152条 時計 (5)

172条 アリーナ内の音楽 (5)

第2章 チーム、選手および用具 (6)

200条 ユニフォームを着用した選手 (6)

201条 チームのキャプテン(主将): ミスコンダクト・ペナルティ (6)

210条 用具: 警告→ミスコンダクト・ペナルティまたはマイナー・ペナルティ (6)

222条 プレイヤーのスティック: ミスコンダクト・ペナルティ (6)

223条 プレイヤーのヘルメット: マイナー・ペナルティ (6)

234条 ゴールキーパーのヘルメットとフルフェイスマスク: マイナー・ペナルティまたはペナルティ・
ショットまたは得点 (7)

240条 ユニフォーム (7)

第3章 オフィシャル(役員)とその任務 (7)

300条 オフィシャルの任命 (7)

311条 レフェリー・ラインズマンの用具 (7)

320条 オファイス・オフィシャル (8)

321条 ゴールジャッジ (8)

第4章 競技規則 (8)

400条 氷上の選手: ベンチ・マイナー・ペナルティ (8)

411条 プレー中、プレイヤーズ・ベンチからのプレイヤー交代: ベンチ・マイナー・ペナルティ (8)

412条 プレー中断中のプレイヤーの交代: ベンチ・マイナー・ペナルティ (9)

413条 ペナルティ・ベンチからのプレイヤーの交代 (9)

415条 プレー中断中のゴールキーパーの交代: マイナー・ペナルティ (9)

416条 プレイヤー(レフェリーおよびラインズマンを含む)の負傷(9)

417条 ゴールキーパーの負傷 (9)

420条 試合時間 (9)

440条 フェイスオフ (10)

442条 フェイスオフの手順 (11)

450条 オフサイド (12)

451条 ディレイド・オフサイドの手順 (12)

- 460条 アイシング・ザ・パック：ベンチ・マイナー・ペナルティ (12)
- 470条 ゴールの定義 (13)
- 471条 ノー・ゴール (14)
- 472条 ゴールとアシストの認定 (14)
- 480条 リンクから出たパック (14)
- 481条 ネットにのったパック (15)
- 482条 見えなくなったパック (15)
- 483条 不正なパック (15)
- 484条 オフィシャルに当たったパック (15)
- 490条 ストップング／パッシング・ザ・パック・ウィズ・ハンド (手でパックを止めたりパスする行為)：マイナー・ペナルティ (15)
- 492条 ハイステッキング・ザ・パック (パックを高い位置のスティックで打つ行為)：(16)
- 499条 ボディチェックの禁止：マイナーまたはメジャー・ペナルティ (退場) (16)

第5章 ペナルティ (17)

- 500条 ペナルティの定義と手順 (17)
- 501条 マイナー・ペナルティ：2分間 (18)
- 502条 ベンチ・マイナー・ペナルティ：2分間 (18)
- 503条 メジャー・ペナルティ：退場 代行者5分間 (18)
- 504条 ミスコンダクト・ペナルティ：10分間 交代可 (18)
- 508条 ペナルティ・ショット (18)
- 509条 ペナルティ・ショットの手順：警告→ミスコンダクト・ペナルティ→得点 (19)
- 510条 追加処分 (20)
- 511条 ゴールキーパーのペナルティ：マイナーまたは ミスコンダクトまたはメジャー・ペナルティ (退場) (20)
- 512条 同時のペナルティ (20)
- 513条 ディレイド・ペナルティ (20)
- 514条 ペナルティのコール (21)

選手に対するペナルティ (21)

- 520条 ボーディング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ (退場) (21)
- 521条 バット・エンディング：メジャー・ペナルティ (退場) (21)
- 522条 チャージング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ (退場) (21)
- 523条 チェッキング・フロム・ビハインド (背後からのチェック)：メジャー・ペナルティ (退場) または1年間の資格停止または除名 (21)
- 524条 クリップング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ (退場) (21)
- 525条 クロステッキング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ (退場) (21)
- 526条 エルボーイング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ (退場) (21)

- 527条 過度のラフプレー：メジャー・ペナルティ（退場）（21）
- 528条 フィスティカフスまたはラフティング（殴り合いまたは乱暴な行為）：メジャー・ペナルティ（退場）（21）
- 529条 ヘッド・バッティング（頭突き）：メジャー・ペナルティ（退場）（21）
- 530条 ハイステッキング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）またはダブル・マイナー・ペナルティ（21）
- 531条 ホールディング・アン・オポーネント（相手をつかむ行為）：マイナー・ペナルティ（22）
- 532条 ホールディング・ザ・スティック（スティックをつかむ行為）：マイナー・ペナルティ（22）
- 533条 フッキング（相手を引っかける行為）：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）またはペナルティ・ショットまたは得点（22）
- 註） ブレイクアウェイ（22）
- 534条 インターフェアランス（妨害行為）：マイナー・ペナルティまたは得点（22）
- 535条 キッキング（相手を蹴る行為）：メジャー・ペナルティ（退場）（22）
- 536条 ニーイング（相手をひざで蹴る行為）：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）（22）
- 537条 スラッシング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）（22）
- 538条 スピアリング：メジャー・ペナルティ（退場）（22）
- 539条 トリップング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）またはペナルティ・ショットまたは得点（22）
- 540条 頭部および頸部（首から上）へのチェック（体のいずれかの部分またはスティックを使った、相手選手の首から上へのチェック）：メジャー・ペナルティ（退場）（23）
- 註） ゴールキーパーに対する反則：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）（23）

その他のペナルティ（23）

- 550条 選手によるオフィシャルに対する粗暴な言動およびアン・スポーツマンライク・コンダクト（スポーツマンらしからぬ行為）：ベンチ・マイナーまたはミスコンダクトまたはメジャー・ペナルティ（退場）（23）
- 551条 チーム・オフィシャルによるオフィシャルに対する粗暴な言動およびアン・スポーツマンライク・コンダクト（スポーツマンらしからぬ行為）：ベンチ・マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）（24）
- 554条 競技遅延：警告→マイナー・ペナルティまたはペナルティ・ショットまたは得点またはベンチ・マイナー（24）
- 555条 不正または危険な用具：警告→ミスコンダクト・ペナルティまたはマイナー・ペナルティ（24）
- 556条 破損したスティック：マイナー・ペナルティ（25）
- 557条 プレイヤーがバックに覆いかぶさる行為：マイナーまたはペナルティ・ショットまたは得点（25）
- 558条 ゴールキーパーがバックに覆いかぶさる行為：マイナー・ペナルティ（26）
- 559条 プレイヤーがバックを手で扱う行為：マイナーまたはペナルティ・ショットまたは得点（26）

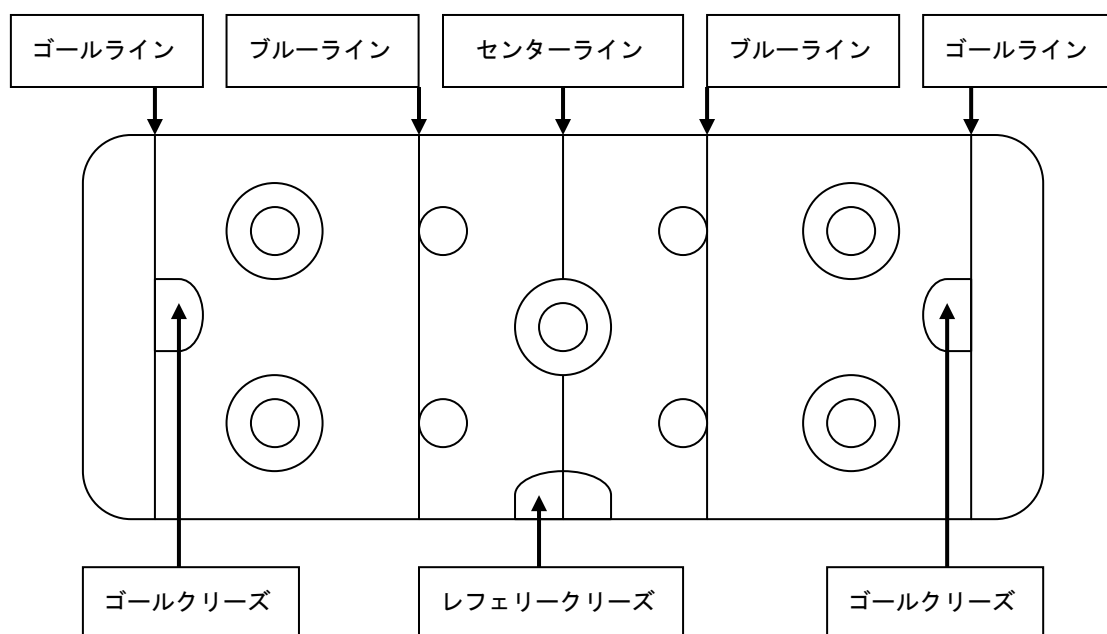
- 560条 ゴールキーパーがパックを手で扱う行為：マイナー・ペナルティ (27)
- 561条 観客に危害を加える行為：メジャー・ペナルティ(退場) (27)
- 562条 プレイヤーがプレイヤーズ・ベンチまたはペナルティ・ベンチを離れる行為：マイナーまたはメジャー・ペナルティ(退場)またはミスコンダクト・ペナルティまたはペナルティ・ショットまたは得点 (27)
- 565条 チーム・オフィシャルがプレイヤーズ・ベンチを離れる：メジャー・ペナルティ(退場)(27)
- 568条 競技エリアの外にスティックその他の物を投げる行為：メジャー・ペナルティ(退場)(28)
- 569条 競技エリアの中でスティックその他の物を投げる行為：マイナーまたはベンチ・マイナー・ペナルティまたはペナルティ・ショットまたは得点(28)
- 570条 ブレイクアウェイの場面でスティックその他の物を投げる行為：ペナルティ・ショットまたは得点(28)
- 572条 キャプテンおよびキャプテン代行の態度：ミスコンダクト・ペナルティ (28)
- 573条 トウ・メニー・プレイヤーズ・オン・ジ・アイス：ベンチ・マイナー・ペナルティまたはペナルティ・ショット (28)
- 576条 ダイビング：マイナー・ペナルティ (29)
- 590条 ゴールキーパーのペナルティ (29)
- 591条 ゴールキーパーがセンター・レッド・ラインを越える行為：マイナー・ペナルティ (29)
- 592条 ゴールキーパーがプレー中断中にプレイヤーズ・ベンチに行く行為：ベンチ・マイナー・ペナルティ (29)
- 593条 いさかいの最中にゴールキーパーがゴール・クリーズを離れる：マイナー・ペナルティ(29)
- 594条 ゴールキーパーがゴールネットにパックをのせる行為：マイナー・ペナルティ (29)
- 595条 ゴールキーパーの保護 (29)
- 資格審査基準・資格審査規約・懲罰基準 (31)

はじめに

このルールブックは‘10～’14年度アイスホッケー公式国際競技規則を参考に編集された。このルールブックにおいて不都合が認められた場合は、青森県素人アイスホッケー協会（以下協会という）の理事会等で審議を行い改訂する。素人

第1章 アイスリンク

第100条 リンクは青森県素人アイスホッケー協会の指定したリンクとする。素人



第112条 ブルーライン

a) 2本のゴールライン間の氷域を、「ブルーライン」と称する幅30cmの青い線で3等分するものとする。ブルーラインは、キックプレートおよびボードにも表示される。NEW

第152条 時計

電子時計 2. 試合経過時間（分.秒）－15分00秒から0分00秒までのカウントダウン NEW

第172条 アリーナ内の音楽

- a) 音楽はかけない。素人
- b) リンク内でのエアホーンおよびホイッスルの使用を禁止する。

第2章 チーム、選手および用具

200条 ユニフォームを着用した選手

a) チームは協会が指定した期日までにメンバー表を提出する。メンバー表の変更および追加は事務手続き上のミスを除いては認めない。参加資格は協会規則による。素人

201条 チームのキャプテン（主将）

a) 各チームは「キャプテン」1名および2名以下の「キャプテン代行」を指名する。

c) 自身がペナルティを科せられている場合を除き、キャプテンまたはキャプテン代行のみが試合中のゴールに関する質問について、氷上でレフェリーと話をする特権を有する。その他の質問については文書で協会（審判委員会）に提出する。素人

d) ペナルティに関する苦情は、規則の解釈に関する問題ではないためペナルティを科せられる。ミスコンダクト・ペナルティ（572条参照）

註）レフェリーは試合前に各チームのキャプテンおよびキャプテン代行を確認する。素人

210条 用具

a) プレイヤーおよびゴールキーパーの用具には、スティック、スケート、防具およびユニフォームがある。

b) グローブ、ヘルメットおよびゴールキーパーのレッグガードを除き、防具はすべて完全にユニフォームの下に着用しなければならない。

c) 用具着用に関する違反はすべて555条に基づきペナルティが科せられるものとする。

d) ジャージを含むすべての用具は、試合前ウォームアップ時にも着用しなければならない。NEW

222条 プレイヤーのスティック

a) スティックは木製、またはIIHFの承認した素材で作られたものでなければならない。

b) スティックにはいかなる突起もあってはならず、すべての角は面取りされていなければならない。

c) スティックシャフトのトップエンドの空洞部分は、保護する形状で無ければならない。NEW

d) 非蛍光色であれば色を問わず粘着テープをスティックのどの部分にも巻くことができる。

e) 蛍光色に塗られたスティックの使用は認められない。もしプレイヤーがそのスティックを取り除くことを拒否した場合、555条に基づきミスコンダクト・ペナルティが科せられるものとする。NEW

223条 プレイヤーのヘルメット

a) 試合中および試合前のウォームアップ中、プレイヤーは全員、国際規格を満たした公認のホッケー用ヘルメット（フルフェイスマスク 素人）を着用し、あごひもを適切に締めなければならない。

c) ヘルメットは、ヘルメットの下端と眉毛との間に指1本分以上のゆとりがないように着用しなければならない。また、あごひもとあごの間のゆとりも、指1本分のみとする。

d) プレー進行中にプレイヤーのヘルメットが脱げた場合、そのプレイヤーはプレーへの参加を認められず、直ちにプレイヤーズベンチに戻らなければならない。NEW

e) ヘルメットを着用せずにプレーを続けたプレイヤーに、555条に項に基づきペナルティが科せられる。

234条 ゴールキーパーのヘルメットとフルフェイスマスク

a) ゴールキーパーは、ホッケー用ヘルメットと「フェイスマスク」、またはゴールキーパー用フルフェイスヘッドプロテクターを着用しなければならない。ゴールキーパーのフェイスマスクは、パックが突き抜けないように作られていなければならない。NEW

c) プレー進行中にヘルメットおよび／またはフェイスマスクが外れた場合、レフェリーはプレーを中断するものとする。NEW

d) プレー進行中に強いショットがゴールキーパーのヘルメットおよびフェイスマスクに当たった場合、相手チームが直ちに得点機会に繋がらない限りプレーは中断するものとする。NEW 直接ゴールした場合はゴールは認められるものとする。

e) 試合を中断させるためにゴールキーパーがヘルメットおよびフェイスマスクを脱いだ場合、レフェリーはゴールキーパーにマイナー・ペナルティを科すものとする。NEW

f) ブレイクアウェイの状況で、試合を中断するためにゴールキーパーがヘルメットおよび／またはフェイスマスクを脱いだ場合には、レフェリーは反則を犯していないチームに対してペナルティ・ショットを与える (PS)。

g) ペナルティ・ショットの状況で、試合を中断するためにゴールキーパーがヘルメットおよび／またはフェイスマスクを脱いだ場合には、レフェリーは反則を犯していないチームに対して得点を与える。

240条 ユニフォーム

各チームのユニフォーム（主たる色が80%）は統一する。素人

a) 但し、現在使用しているユニフォームに何らかの不都合がある場合は、現在使用しているユニフォームに限り、そのまま使用できる。素人

b) 両チームのユニフォームの色が紛らわしい場合は、レフェリーの判断でオフィシャル から見てベンチ右側のチームがベストを着用する。素人

第3章 オフィシャル（役員）とその任務

300条 オフィシャルの任命

オフィシャル・チームは、レフェリー2名、ラインズマン2名、ゴールジャッジ2名、スコアキーパー1名、タイムキーパー1名、アナウンサー1名、ペナルティ・ベンチ・アテンダント2名を用意する。素人

311条 レフェリー・ラインズマンの用具

a) レフェリーおよびラインズマン全員は、黒のズボンとオフィシャル用のセーターを着用しなければならない。

b) フェリーおよびラインズマンは、スケート、およびバイザーのついた黒のホッケー用ヘルメットを着用しホイッスルを携帯しなければならない。素人

c) レフェリーは幅8～10cmの赤またはオレンジのアームバンドを、両そでの上部につけるものとする。

註) ヘルメットを除いて、すべての防具はズボンおよびセーターの下に着用する。**素人**

320条 オフアイス・オフィシャル（競技役員）

321条 ゴールジャッジ

a) 各ゴールの後ろに、1名のゴールジャッジを配置する。素人

b) ゴールジャッジは、パックがゴールポストの間を通り完全にゴールラインを越えたかどうかのみを判定するものとし、その判定を適切な合図で知らせるものとする。

c) レフェリーはゴールジャッジと協議することができるが、得点に関する論争の最終決定はレフェリーが下すものとする。

第4章 競技規則

400条 氷上の選手

プレー進行中、各チームは6名を越える選手を同時に氷上に出してはならない。トウ・メニー・プレイヤーズによるベンチ・マイナー・ペナルティ（573条）

411条 プレー中、プレイヤーズ・ベンチからのプレイヤー交代

a) プレイヤーおよびゴールキーパーは、以下のことを条件に試合の進行中いつでもプレイヤーズ・ベンチの選手と交代することができる。

1. 交代するプレイヤーおよびゴールキーパーは、それぞれのプレイヤーズ・ベンチ前のボードから1.5mの仮想エリア内に戻っていなければならない。

2. 交代出場するプレイヤーおよびゴールキーパーは、完全に交代が行われるまでプレーに参加してはならない。

3. アイシングによってプレーが中断した場合は、両チームともフェイスオフが行われる前のプレイヤーの交代が認められる。素人

b) 交代の際、退くプレイヤーがまだ氷上にいる間に交代出場するプレイヤーがパックをプレーしたり、相手と身体的に接触した場合、メンバー・オーバーによるベンチ・マイナー・ペナルティが科せられる。（573条）

c) 交代出場するプレイヤーが氷上にいる間、氷上から退くゴールキーパーがパックをプレーしたり、相手と身体的に接触した場合、メンバー・オーバーによるベンチ・マイナー・ペナルティが科せられる。（573条）

d) 交代の際、交代出場する選手または退く選手にパックが偶発的に当たってしまった場合、プレーは中断されず、ペナルティも科せられない。

e) プレイヤーと交代するためにゴールキーパーがゴール・クリーズを離れプレイヤーズ・ベンチに向う際の交代が早すぎた場合、オフィシャルは違反したチームがパックを保持した時点でプレーを中断し、センター・フェイスオフ・スポットでフェイスオフを行うものとする。ただし、そのフェイスオフ・スポットでフェイスオフを行うことにより、この違反をしたチームが地域的に有利となる場合には、試合が中断した最寄りのフェイスオフス

ポットでフェイスオフを行うものとする。

4 1 2 条 プレー中断中のプレイヤー交代の手順

プレー中断後のフェイスオフにおいて、競技の進行を遅らせる選手交代をしたチームには、レフェリーおよびラインズマンの判断でベンチ・マイナー・ペナルティが科せられる。素人

4 1 3 条 ペナルティ・ベンチからのプレイヤーの交代

ペナルティを遂行しているプレイヤーが、そのペナルティの完了後に交代する場合、そのプレイヤーは、いかなる交代も行われる前に氷上を通過して一旦、自チームのプレイヤーズ・ベンチに戻らなければならない。**ベンチ・マイナー・ペナルティ**（5 6 2 条）

4 1 5 条 プレー中断中のゴールキーパーの交代

- a) 交代する場合またはタイムアウト中を除き、プレー中断中、ゴールキーパーはプレイヤーズ・ベンチに戻ること認められない。**マイナー・ペナルティ**（5 9 2 条）
- b) プレー中断中にゴールキーパーが交代した場合、退いたゴールキーパーは、プレー再開次第、試合に再出場することができる。

4 1 6 条 プレイヤー（レフェリーおよびラインズマンを含む）の負傷

プレイヤー（レフェリーおよびラインズマンを含む）が負傷等で氷上に倒れた場合、レフェリーおよびラインズマンは状況によりプレーを中断し、他のプレイヤーと交代させる。この間、時計は止める。ペナルティを科せられた選手が負傷した場合は、交代の選手がペナルティ・ベンチに入る。負傷したプレイヤーはペナルティが完了するまでプレーに参加できない。素人

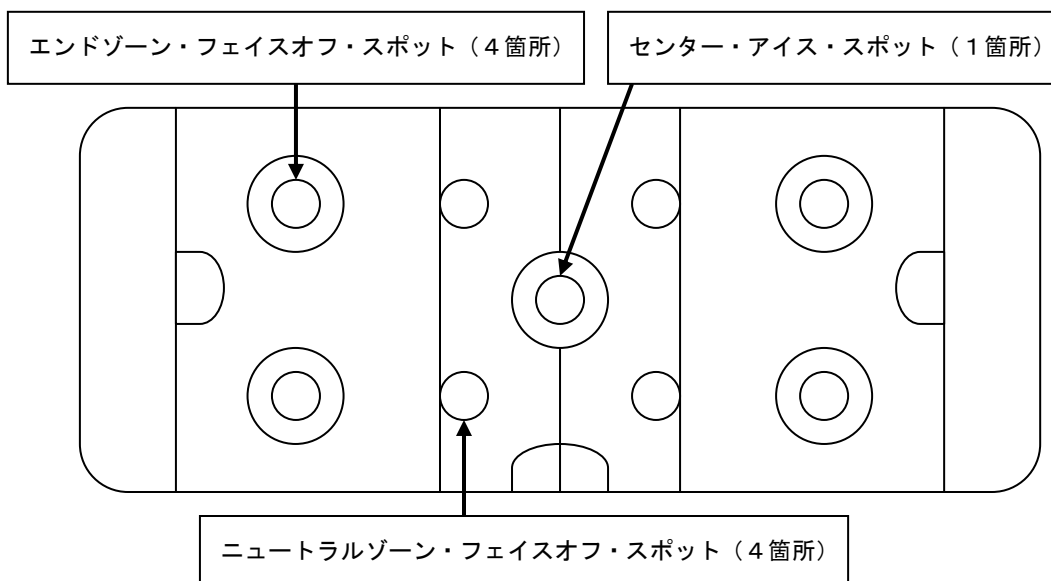
4 1 7 条 ゴールキーパーの負傷

ゴールキーパーが負傷した場合、チームの中の1名をゴールキーパーとして指名する。準備の時間は防具を付けるための10分間が与えられる。指名された選手は正規のゴールキーパーが参加するまで交代できない。試合開始時にゴールキーパーが不在の場合は、この項に準ずる。素人

4 2 0 条 試合時間

通常の試合は、ロスタイム込みの15分の3つのピリオドおよび2回の5分間のインター・ミッションからなる。ただし、試合終了前の2分間は正味時間となる。チームは各ピリオド終了毎にエンドを交代する。素人

440条 フェイスオフ NEW



- a) 各ピリオド開始時およびすべてのプレー中断後、フェイスオフを行うものとする。
- b) フェイスオフは、指定された9ヶ所のフェイスオフ・スポットでのみ行われる。
- c) 以下の場合、センター・アイス・スポットでフェイスオフを行う。
1. ピリオド開始時
 2. 得点后
 3. アイシングのミスコールの後
 4. ゴールキーパーの交代が早過ぎた場合（411条eの場合を除き）
- d) アタッキングゾーンにおいて攻撃側のプレイヤーが原因となってプレーが中断した時、続くフェイスオフはニュートラル・ゾーンの最寄りのフェイスオフスポットで行われる。もし2つの反則（ハイステッキング・ザ・パックおよび故意のオフサイド）によってプレーが中断した場合、続くフェイスオフの場所は攻撃側チームにもっとも不利となるスポットで行われる。
- e) パックがニュートラルゾーンにあり、プレー中断の理由がどちらのチームにもあてはまらない場合、続くフェイスオフは、ブルーライン付近のフェイスオフスポットにて行われる。素人
- f) 両チームのプレイヤーによって、競技規則に反する行為によりプレーが中断した時、続くフェイスオフはそのゾーンの最寄りのフェイスオフスポットにて行われる。
- g) プレー中断中にプレイヤーがペナルティを科せられ、その結果チームにペナルティータイムが記録された時、続くフェイスオフは反則を犯したチームのエンドゾーンにある2つのスポットのどちらかで行われる。但し以下の4項目に限り適用されない。
1. 得点後にペナルティが科せられた時。— センター・フェイスオフスポットにてフェイスオフ。
 2. ピリオド終了後（または開始時）に、ペナルティが科せられた時。— センター・フェイスオフスポットにてフェイスオフ。

3. ディフェンディングチームにペナルティを科せられた時に、攻撃側のプレイヤーがアタッキングゾーンに入り、エンドゾーン・フェイスオフサークルの外側のラインを越え侵入してきたとき— ニュートラルゾーン内のフェイスオフスポットにてフェイスオフ。
4. ペナルティを科せられていないチームが、アイシングをした時。— アイシングをしたチームのブルーライン外側のニュートラルゾーン・フェイスオフスポットにてフェイスオフ。
- h) エンド・フェイスオフスポットとリンクのエンド付近の間でプレーが中断した場合、規則に記載されていない限り、中断したエンド・フェイスオフスポットにて行われる。
- i) ディフェンディングゾーンにおいて、パックがオフィシャルに当たり、直接ゴールに入った認められない得点の場合、続くフェイスオフは、ディフェンディングゾーン内のフェイスオフスポットにて行われる。
- j) 規則に記載されていない理由によってプレーが中断した時、続くフェイスオフは、プレーが中断したゾーンの最寄りのフェイスオフスポットにて行われる。
- k) プレー中断後、1名または両方のポイント・プレイヤーのディフェンスマン、またはアタッキング・チームのベンチから氷上に出てきたプレイヤーが、いさかいの最中にアタッキング・ゾーンに入りエンド・ゾーン・フェイスオフ・サークルの外側のラインを越えた場合、続くフェイスオフは、ディフェンディング・チームのブルーライン近くのニュートラル・ゾーンにて行われる。この規則は同様にアイシング、故意のオフサイド、またはハイスティック・ザ・パックにあてはまる。反則していないプレイヤーが、いさかいの最中にアタッキング・ゾーンに入りエンド・ゾーン・フェイスオフ・サークルの外側のラインを越えた場合、続くフェイスオフは、ディフェンディング・チームのブルーライン近くのニュートラル・ゾーンにて行われる。
- l) 4 1 1 条 e の反則に対して、結果として生じるフェイスオフは、センター・レッドラインを超えてプレーが中断した場合、センターアイス・フェイスオフ・スポットで行われる。センター・レッドラインを越える前でプレーが中断した場合、結果として生じるフェイスオフは、プレーが中断したゾーンの最寄りのフェイスオフ・スポットで行われる。
- m) 負傷したプレイヤーのためにプレーが中断したとき、続くフェイスオフは、プレーが中断した際のパックの位置の最寄りのゾーンのフェイスオフ・スポットにおいてフェイスオフが行われる。負傷したプレイヤーのチームがアタッキング・ゾーンにおいてパックを保持している場合、フェイスオフは、ニュートラルゾーンのブルーライン付近の一つのフェイスオフ・スポットにて行われる。負傷したプレイヤーが自身のディフェンディング・ゾーンに位置し、アタッキング・チームがアタッキング・ゾーンにおいてパックを保持している場合、フェイスオフはディフェンディング・チームのエンド・ゾーン・フェイスオフ・スポットにおいて行われる。

4 4 2 条 フェイスオフの手順

- a) レフェリーまたはラインズマンは「フェイスオフ」を行う 2 名のプレイヤーのスティックの間にパックをドロップする。
- b) 両プレイヤーは相手エンドの方を向き、スティック 1 本分程度の間隔をあけて真正面に相対し、スティックのブレードを氷上のフェイスオフ・スポットの白い部分につけるものとする。
- c) アタッキング・ハーフにいるアタッキング・チームのプレイヤーが先にスティックを氷につけ、ディフェンディング・チームのプレイヤーが速やかに続くものとする。

450条 オフサイド

a) アタッキング・チームのプレイヤーは、パックより先にアタッキング・ゾーンに入ることはいできない。

b) オフサイドの判定基準は以下のとおりである。

1. プレイヤーのスケートの位置：パックが完全にアタッキング・ゾーンのブルーラインを越える前に、両足のスケートが完全にそのブルーラインを越えていたプレイヤーはオフサイドとなる

2. パックの位置：パックが完全にブルーラインを越え、アタッキング・ゾーンに入っていないなければならない。

3. 後ろ向きにスケーティングをしながらプレイヤーがパックを進め、パックより先にラインを越えた場合、そのプレイヤーは実際にパックを支配し、両足のスケートがブルーラインを超える前にニュートラルゾーンに位置しているならばオフサイドにはならない。NEW

c) この規則に違反した場合、プレーは中断され、以下の場所でフェイスオフが行われる。

1. アタッキング・プレイヤーがパックを保持してブルーラインを越えた場合、最寄りのニュートラル・ゾーン・フェイスオフ・スポット

2. アタッキング・プレイヤーがパスまたはショットしたパックがブルーラインを越えた場合、最寄りのニュートラル・ゾーン・フェイスオフ・スポット NEW

3. ラインズマンまたはレフェリーが、プレイヤーが故意のオフサイドをしたと判断した場合、反則したチームのディフェンディング・ゾーンのエンド・フェイスオフ・スポット

4. アタッキング・プレイヤーが自分のディフェンディング・ゾーンからパスまたはショットを出した場合には、この規則に違反した側のチームのディフェンディング・ゾーンのエンド・ゾーン・フェイスオフ・スポット

451条 ディレイド・オフサイドの手順

アタッキング・プレイヤーがパックより先にアタッキング・ゾーンに入ったが、ディフェンディング・プレイヤーがそのパックをプレーできる状態にある場合、パックがゴール目がけてシュートされゴールキーパーがパックをプレーしようとしている場合を除き、ラインズマンは腕を上げ、「ディレイド・オフサイド」の合図をするものとする。

以下の場合、ラインズマンは腕を下ろし、オフサイドを取り消しプレーを続行させる：

1. ディフェンディング・チームがニュートラル・ゾーンにパックをパスしたり持ち込んだ場合

2. アタッキング・プレイヤーが全員、スケートをブルーラインに接触させることによって直ちにアタッキング・ゾーンから出た場合

460条 アイシング・ザ・パック

a) 本規則適用のために、リンクをセンター・レッド・ラインで二等分する。パックを保持しているチームが最後にパックに触った地点を基準に、アイシングを判定する。

b) 氷上にいる選手の人数が相手チームと同数または上回っているチームのプレイヤーが自チーム側のハーフからシュートしたり、打ったり、跳ね返したパックが相手チームのゴールラインを越えた場合、プレーは中断されアイシングがコールされるものとする。

c) 反則したチームが最後にパックに触った地点に最も近い、反則したチームのエンド・ゾーン・フェイスオフ・

スポットでフェイスオフが行われる。

d) 以下の場合アイシングはコールされない：

1. パックがゴールに入った場合 — 得点が認められる
2. パックが打たれたとき、反則したチームが「ショートハンド」だった場合
3. パックがゴールラインを越える前に、ゴールキーパーを含む相手選手に当たった場合
4. フェイスオフを行ったプレイヤーの打ったパックが直接ゴールラインを越えた場合
5. パックがゴールラインを越える前に、ゴールキーパーを除く相手チームのいずれかのプレイヤーがそのパックをプレーできる状態にあったとラインズマンが判断した場合
6. ゴールキーパーがアイシングの状況でクリーズを離れて、パックの方向へ動いた場合および同じ状況下でクリーズの外におり、パックの方向へ動いた場合

470条 ゴールの定義

以下の場合、得点が認められる：

1. アタッキング・チームの選手がスティックで打ったパックが、両方のゴールポストとクロスバーで囲まれた範囲を通り完全にゴールラインを超えた場合
2. ディフェンディング・チームのプレイヤーが何らかの方法でパックをゴールに入れた場合
3. アタッキング・プレイヤーの打ったパックがチームメイトに当たり跳ね返ってゴールに入った場合
4. ディフェンディング・プレイヤーに身体的妨害を受けたアタッキング・チームのプレイヤーがゴール・クリーズ内に入ってしまう、その間にパックがゴールに入った場合。但し、そのプレイヤーがクリーズの外に出る時間的余裕があったとレフェリーが判断した場合を除く。
5. ゴール・クリーズ内で誰にも保持されていない状態になったパックをアタッキング・プレイヤーがスティックでゴールに押し込んだ場合
6. パックがアタッキング・プレイヤーまたはディフェンディング・プレイヤーのスケートに当たり、跳ね返って直接ゴールに入った場合
7. パックがゴールラインを超えた時点で、アタッキング・プレイヤーがゴール・クリーズ内にいたが、ゴールキーパーのゴールを守る能力に一切影響が無かった場合。但し競技規則471条に規定されている場合を除く。

471条 ノー・ゴール

a) 以下の場合、得点は認められない：

1. アタッキング・プレイヤーが故意に蹴ったり、投げたり、手で打ったり、またはスティック以外の手段でパックを直接ゴールに入れた場合（491条の場合を除く）。そのパックがいずれかのプレイヤー、ゴールキーパーまたはオフィシャルに当たった場合を含む。
2. アタッキング・プレイヤーがクロスバーより高い位置でパックに触れた場合
3. パックがオフィシャルに当たり、直接ゴールにはいった場合
4. アタッキング・プレイヤーがゴール・クリーズ内に立ったり、スティックを入れている間にパックがゴールに入った場合。但し、ゴール・クリーズに入るようにディフェンディング・プレイヤーによって身体的圧力をかけられ、クリーズから出るに十分な時間がなかったとレフェリーが判断した場合や、第470条の場合を除く。
5. ゴールが通常の位置から外れた場合。あるいはゴールネットのフレームが氷上に対して完全に平らになっていない場合
6. ゴールキーパーがクリーズ内におり、アタッキング・プレイヤーが偶然あるいは他の理由でゴールキーパーへの接触を始め、ゴールにパックが入った場合。
7. ゴールキーパーがクリーズの外におり、アタッキング・プレイヤーがゴールキーパーと偶然ではない接触を始め、ゴールにパックが入った場合
8. アタッキング・プレイヤーがクリーズ内に位置しているために、ゴールキーパーの視野を妨げる結果となり、ゴールキーパーのゴールを守る能力への障害となっており、ゴールにパックが入った場合
9. ゴールキーパーがパックを止めた後にパックとともにネットに押し込まれた場合。ペナルティコールが可能であるならば、適切なペナルティを科すこと。

b) 故意であるか否かに関わりなく、パックがゴールクリーズの内側またはその周囲に横たわっている選手の下にある場合、その選手をパックとともにゴールに押し入れることによって得点をすることはできない。条項の適用が可能な場合、ペナルティショットを含む適切な反則が科せられる（557条参照）

472条 ゴールとアシストの認定

- a) パックを相手チームのネットに入れたプレイヤーに「ゴール」が記録される。
- b) 選手の記録上、1ゴール1ポイントとカウントされる。
- c) 得点が入った場合、直前のプレーに直接かかわった選手に「アシスト」が記録される。
- d) 1ゴールにつき、アシストが認定されるのは2名までとする。
- e) 選手の記録上、1アシスト1ポイントとカウントされる。

480条 リンクから出たパック NEW

パックが競技エリアの外に出たり、リンクのボードまたは保護ガラス以外の障害物に当たった場合、プレーは中断され、本競技規則に別途定められている場合を除き、パックが打たれた場所または跳ね返った場所の最寄りのフェイスオフスポットにてフェイスオフが行われるものとする。

481条 ネットにのったパック NEW

パックがゴールの外側のネット上に3秒以上のっていた場合、または相対するプレイヤーがパックをゴールに押し付けて動きを止めてしまった場合、レフェリーはプレーを中断し以下の場所でフェイスオフを行うものとする。

1. 中断の原因がディフェンディング・プレイヤーにあるとレフェリーが判断した場合、最寄りのエンド・ゾーン・フェイスオフ・スポット
2. 中断の原因がアタッキング・プレイヤーにあるとレフェリーが判断した場合、最寄りのニュートラル・ゾーン・フェイスオフ・スポット

482条 見えなくなったパック NEW

もみ合い、またはプレイヤーが偶発的にパックの上に倒れたことによってパックがレフェリーから見えなくなった場合、レフェリーは直ちにプレーを中断し、本競技規則に別途定められている場合を除き、プレーが中断された場所の最寄りのフェイスオフスポットにおいてフェイスオフを行うものとする。

483条 不正なパック

プレー進行中いかなる時も、正当にプレーされているパック以外のパックが氷上に入った場合、パックが相手チームに渡ることによって進行中のプレーが完了するまでプレーは中断されない。

484条 オフィシャルに当たったパック

パックがオフィシャルに当たった場合、そのパックがゴールに入った場合を除き、プレーは中断されない。

490条 ストッピング/パッシング・ザ・パック・ウィズ・ハンド（手でパックを止めたりパスする行為） NEW

プレイヤーは空中のパックを平手で止めたり、打ったり、または氷上を滑らせることができる。但し、そのプレイヤーがチームメイトの方向に意図的にパックの向きを変えたり、そのチームのプレイヤーがパックを手で扱いかなるプレイヤーやオフィシャルに直接はね返り、有利になってしまったとレフェリーが判断した場合を除く。

プレイヤーは空中のパックをつかむことを許されるが直ちに氷上に落とさなければならない。もしプレイヤーが相手のチェックを避けるため、もしくは自分たちに有利になるようにパックを保持してスケートをした場合、**マイナー・ペナルティ**が科せられる。（559条参照）

a) そのプレイヤーのチームメイトがニュートラル・ゾーンでパックを保持した場合、プレーは中断され、違反が発生したゾーン内の最寄りのフェイスオフ・スポットでフェイスオフが行われる。但し、反則したチームが位置的に優位になる場合は、規則に記載されている場合を除きプレーの中断したゾーン内の最寄りのスポットでフェイスオフを行うものとする。

b) そのプレイヤーのチームメイトがディフェンディング・ゾーンでパックを保持した場合、そのプレイヤーおよびパックがゾーンを出る前にハンドパスが完了していれば、レフェリーはプレーを中断しないものとする。但し、ニュートラル・ゾーンにいるプレイヤーからディフェンディング・ゾーンにいるチームメイトにハンドパスがな

された場合は、レフェリーはプレーを中断し、ディフェンディング・ゾーン内のスポットにてフェイスオフを行うものとする。

- c) そのプレイヤーのチームメイトがアタッキング・ゾーンでパックを保持した場合、レフェリーはプレーを中断し、アタッキング・ゾーン外側のニュートラルゾーン・フェイスオフ・スポットでフェイスオフが行われる。
- d) アタッキング・プレイヤーが手で打ったパックがゴールに入った場合、そのパックがいかなるプレイヤーまたはスティック、ゴールキーパーまたはオフィシャルに当たっているならば、得点は認められないものとする。
- e) アタッキング・プレイヤーが手で打ったパックがゴールに入った場合、そのパックがいかなるプレイヤーまたはスティックおよびスケート、ゴールキーパーまたはオフィシャルに当たっているならば、得点は認められないものとする。

492条 ハイステッキング・ザ・パック（パックを高い位置のスティックで打つ行為）

- a) 肩より高い位置のスティックでパックを止めたり打つことは禁じられている。この規則に反した場合、以下を除きプレーが中断される：
 - 1. 打ったパックが相手に渡った場合、レフェリーは「ウォッシュアウト」を合図しプレーを続行する。
 - 2. ディフェンディング・チームのプレイヤーが打ったパックが自チームのゴールに入った場合、得点が認められる。
- b) アタッキング・ゾーンにいるアタッキング・プレイヤーが高い位置のスティックでパックを打った場合、ニュートラル・ゾーン内の最寄りのスポットでフェイスオフが行われる。
- c) ディフェンディング・ゾーンまたはニュートラル・ゾーンにいるプレイヤーが高い位置のスティックでパックを打った場合、ディフェンディング・ゾーン内の最寄りのフェイスオフスポットでフェイスオフが行われる。NEW
- d) アタッキング・プレイヤーがゴールのクロスバーより高い位置のスティックで打ったパックがゴールに入った場合、得点は認められない。

499条 ボディチェックの禁止

素人アイスホッケーでは、ボディチェックはしてはならない：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）素人

第5章 ペナルティ

500条 ペナルティの定義と手順

ペナルティの種類および科せられる時間は以下のとおりである。素人

プレイヤーのペナルティ

ペナルティの種類	本人の退場時間	ペナルティ・ベンチ遂行者
マイナー・ペナルティ	2分	反則者
ベンチ・マイナー・ペナルティ	2分	代行者（氷上にいるプレイヤー）
メジャー・ペナルティ	当該試合の残り時間	代行者（いずれかのプレイヤー）5分・ 協会に報告書提出
ミスコンダクト・ペナルティ	10分	反則者（交代出場可・2回目退場）

註) 1. メジャー・ペナルティ代行者の5分間のペナルティは、たとえ得点された場合でも5分間はペナルティ・ベンチを出ることはできない。2. ベンチ・マイナーおよびミスコンダクト・ペナルティは、スリーペナルティにカウントしない。素人

ゴール・キーパーのペナルティ

ペナルティの種類	本人の退場時間	ペナルティ・ベンチ遂行者
マイナー・ペナルティ	—	代行者（氷上にいるプレイヤー）
ベンチ・マイナー・ペナルティ	適用なし	—
メジャー・ペナルティ	当該試合の残り時間	代行者（氷上にいるプレイヤー）5分・ 協会に報告書提出
ミスコンダクト・ペナルティ	—	代行者（交代出場可・2回目退場）

註) 1. メジャー・ペナルティ代行者の5分間のペナルティは、たとえ得点された場合でも5分間はペナルティ・ベンチを出ることはできない。2. ベンチ・マイナーおよびミスコンダクト・ペナルティは、スリーペナルティにカウントしない。素人

ペナルティはすべて正味のプレイング・タイムとする。

1. 試合後に科せられたペナルティは、レフェリーがオフィシャルゲームシートに記録するものとする。
2. ペナルティを遂行するプレイヤーを監督またはコーチが指名することが規則に定められている。監督またはコーチが指名を拒否した場合、レフェリーは、反則したチームの中からペナルティを遂行するプレイヤーを指名する権限を有する。
3. 同一チームの2名のプレイヤーのマイナーまたはメジャー・ペナルティが同時に終了する場合、そのチームのキャプテンは、先に氷上に戻るプレイヤーを指名しレフェリーに伝えるものとする。レフェリーはその内容をスコアキーパーに知らせる。

501条 マイナーペナルティ

ゴールキーパーを除き、マイナー・ペナルティを科せられたプレイヤーは**2分間の退場**となり、その間の交代は認められない。

1人のプレイヤーにメジャー・ペナルティとマイナー・ペナルティが同時に科せられた場合、メジャーペナルティが先に遂行される。これは、両方のペナルティが同一のプレイヤーに科せられた場合に適用される。(513条参照)

502条 ベンチマイナーペナルティ

a) ベンチ・マイナー・ペナルティがチームに科せられた場合、反則があった時点で氷上にいたゴールキーパー以外のプレイヤーの中からキャプテンを通じ、コーチ・マネージャーが指名したプレイヤーが2分間の退場となる。

その間の交代は認められない。NEW

b) 1つまたは複数のマイナーまたはベンチ・マイナー・ペナルティによってチームが「ショートハンド」になっている間に相手チームが得点した場合、遂行されているペナルティのうち先に科せられたペナルティが自動的に終了するものとする。ただしそのペナルティが相手側の選手と同時に科せられたものであり、それが両チーム1名ずつショートとなる状況の原因となったものである場合には、先に科せられたものでなく、得点の前に科せられたその次の、その次のマイナーまたはベンチ・マイナー・ペナルティが終了するものとする。

503条 メジャーペナルティ

ゴールキーパーを含むメジャー・ペナルティを科せられた選手は、その試合の残り時間を退場となり**5分後**に交代選手の出場が認められる。

504条 ミスコンダクト・ペナルティ

a) ゴールキーパーを除き、1回目のミスコンダクト・ペナルティを科せられたプレイヤーは**10分間の退場**となり、直ちに交代選手の出場が認められる。ミスコンダクト・ペナルティを科せられたプレイヤーは、ペナルティ遂行後の最初のプレー中断時までペナルティ・ベンチを出ることはできない。

b) ゴールキーパーを含む、2回目のミスコンダクト・ペナルティを科せられた選手はその試合の残り時間を**退場**となり、直ちに交代選手の出場が認められる。

508条 ペナルティ・ショット

a) 背後から反則された選手へペナルティショットを与えるためには、5つの条件が必要とされる。

1. 反則が発生したのはその選手のディフェンディング・ゾーンの外側であること（完全にブルーラインを通過していること）。
2. アタッキング・プレイヤーはパックを支配およびコントロールしていたこと。
3. 反則行為が背後から行われたこと。
4. パックを支配およびコントロールしていたアタッキング・プレイヤーは、絶好な得点の機会を奪われたこと。
5. パックを支配およびコントロールしていたアタッキング・プレイヤーには、ゴールキーパー以外、対面し、通

り抜ける必要のある防御側の選手がいないこと。

b) ブレイクアウェイの状況においてゴールキーパーがプレイヤーに反則した場合、背後からの反則であるか否かに関わらずペナルティ・ショットが与えられる。NEW

c) その他のペナルティを伴う反則の場合、反則していないチームにショットが与えられるものとし、ショットの結果に関わらず、反則したチームに当該ペナルティが科せられるものとする。

509条 ペナルティ・ショットの手順

a) ペナルティショットの対象となる反則をプレイヤーが受けた場合、反則されたプレイヤーがペナルティショットを行う。

もし反則を受けたプレイヤーがそのプレーにおいて負傷していた場合、キャプテンは反則の時点で氷上にいたペナルティを科せられていないプレイヤーの中から指名する。NEW

b) 反則されたプレイヤーを特定できない場合、反則されたチームのコーチまたはキャプテンは、反則の時点で氷上にいたペナルティを科せられていないプレイヤーの中からショットを行うプレイヤーを選び、その背番号をレフェリーに報告する。NEW

c) レフェリーはそのプレイヤーの名前と背番号を場内にアナウンスさせる。ペナルティを遂行中のプレイヤーまたはディレイド・ペナルティを科せられているプレイヤーはショットを行うことはできない。

d) 両チームのプレイヤーは、各プレイヤーズベンチに下がらなければならない。NEW

e) レフェリーはパックをセンタースポットに置く。ゴールキーパーのみがペナルティ・ショットに対してゴールを守ることができる。

f) ゴールキーパーは、ショットを行うプレイヤーがパックに触れるまで、ゴールクリーズ内にいなければならない。

註) 反則した場合、レフェリーは腕を上げて反則の合図をするが、そのショットは完了させる。ショットが外れた場合、1回目の反則：警告を与え、ペナルティ・ショットのやり直しを認める。2回目の反則：ミスコンダクト・ペナルティを科し、ペナルティ・ショットのやり直しを認める。3回目の反則：相手チームに得点を与える。

g) プレイヤーはレフェリーの指示に従い相手ゴールラインの方向にパックを進め、シュートを試みる。

h) プレイヤーが失敗をして途中パックに触れずに通り過ぎ、パックがセンター・フェイスオフ・スポットにある場合プレイヤーは戻ってペナルティ・ショットを続けることができる。NEW

i) パックがシュートされた時点でそのプレーは完了したものとみなされ、いかなる形であれ2回目のシュートでの得点は認められない。

j) 得点が入った場合、センター・アイスでフェイスオフが行われる。

k) 得点が入らなかった場合、ペナルティ・ショットが行われた側のいずれかのエンドゾーン・フェイスオフ・スポットでフェイスオフが行われる。

註) 相手チームの選手がペナルティ・ショットを行っているプレイヤーを妨害したり、気を散らすような行為をし、それによってショットを失敗した場合、レフェリーは2回目のペナルティ・ショットを与えると同時に、反則した選手にミスコンダクト・ペナルティを科す。

510条 追加処分

退場処分を確認したオフィシャル・チームの理事は協会（懲罰委員会）に対し、速やかに報告する。協会（懲罰委員会）は速やかに当該選手の出場停止期間等を決定し、当該選手チームの理事に通知する。素人

511条 ゴールキーパーのペナルティ

ゴールキーパーはペナルティ・ベンチに入らない。

a) ゴールキーパーにマイナーまたは1回目のミスコンダクト・ペナルティが科せられた場合：

ゴールキーパーはプレーを続ける。

その反則行為に対してペナルティを科すために、試合が中断された時点で氷上にいた自チームの他のプレイヤーの中から、監督またはコーチがキャプテンを通じて指名したプレイヤーがペナルティを代行するものとする。

b) メジャー・ペナルティまたは2回目のミスコンダクト・ペナルティを科せられた場合は、ゴールキーパーはその試合の残り時間の退場となる。 素人

控えのゴールキーパーがいる場合は交代し、いない場合は自チームのいずれかのプレイヤーと交代する。そのプレイヤーには、ゴールキーパーの防具を着用するための準備時間が10分間与えられるものとする。

c) メジャー・ペナルティの場合、キャプテンを通じて監督またはコーチが指名したその反則行為に対して、ペナルティを科すために試合が中断された時点で、氷上にいた自チームのプレイヤーが5分間のペナルティを代行する。 素人

512条 同時のペナルティ

a) 同数の同一のペナルティ（マイナー・メジャー）が同じプレー中断時に両チームに科せられた場合、これらのペナルティを同時のペナルティという。 素人

b) 同時のペナルティが科せられた場合、これらのペナルティに対して直ちに交代選手の出場を認め、ディレイド・ペナルティの対象とはならない。

c) ペナルティを科せられたプレイヤーが試合に残る場合、ペナルティベンチに入り、それぞれのペナルティ終了後の最初のプレー中断時までペナルティ・ベンチを出ることはできない。

以下の場合を唯一の例外とする（本項「d」参照）

d) 両チームが氷上にフル・ストレングス（ゴールキーパーを含めて6人ずつ）いる状況で、同じプレー中断時に両チーム1名ずつのプレイヤーに1つのみのマイナー・ペナルティが科せられた場合、交代は行われない。

513条 ディレイド・ペナルティ

本規則は、マイナー、ベンチ・マイナー、メジャー・ペナルティが科された場合に適用される。 素人

a) いずれかのチームの2名プレイヤーがペナルティを遂行している間に、同一チームの3人目のプレイヤーにペナルティが科せられた場合、3人目のプレイヤーのペナルティは、先の2名のいずれかのペナルティタイムが終了するまで始まらない。

b) この3人目のプレイヤーは速やかにペナルティ・ベンチに入らなければならないが、交代選手の出場が認められる。

c) いずれかのチームの3名またはそれ以上のプレイヤーが同時にペナルティを遂行している状況で、ディレイド・ペナルティの規則により3人目の反則者の交代選手が氷上にいる場合、ペナルティを科せられた3名のプレイヤーのいずれも、自身のペナルティタイム終了後、プレーが中断するまで氷上に戻ることはできない。但し、ペナルティが終了した事によってそのチームがゴールキーパーを含め5名以上の選手を氷上に出せる状態になった場合は、ペナルティを科せられたプレイヤーはペナルティの科された順番に氷上に戻る事を認められる。

514条 ペナルティのコール

規則に反する行為があった場合、ペナルティがコールされる：

a) 反則した選手のチームがパックを保持している場合、レフェリーは直ちにホイッスルを吹き、ペナルティを科すものとする。続くフェイスオフは、反則をしたチームのエンドゾーン内にある2つのフェイスオフスポットのうち、いずれかで行われる。(440条参照) NEW

b) 反則したプレイヤーのチームがパックを保持していない場合、レフェリーは腕を上げ、ペナルティのコールを示し、反則をしたチームがパックを保持次第、ホイッスルを吹きペナルティを科すものとする。NEW

c) レフェリーがディレイド・ペナルティのために腕を上げた後、反則を犯していないチームの行為によりそのチームに対して何らかの方法で得点がなされた場合の得点は認められ、そして通常の方法でペナルティが科せられるものとする。

d) レフェリーが腕を上げた後、反則していないチームが得点した場合、その得点は認められ、1つ目のマイナー・ペナルティが相殺される。その他のペナルティは科されるものとする。反則したチームがショートハンドの状態にあった場合、既に科せられている1つめのマイナーまたはベンチマイナー・ペナルティは終了し、合図されたすべてのペナルティは通常通り科せられるものとする。NEW

選手に対するペナルティ 素人

520条 ボーディング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）

521条 バット・エンディング：メジャー・ペナルティ（退場）

522条 チャージング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）

523条 チェッキング・フロム・ビハインド（背後からのチェック）：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）

524条 クリッピング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）

525条 クロスチェッキング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）

526条 エルポーイング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）

527条 過度のラフプレー：メジャー・ペナルティ（退場）

528条 フィスティカフス（殴り合い）：メジャー・ペナルティ（退場）

528条 ラフティング（乱暴な行為）：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）

529条 ヘッド・バッティング（頭突き）：メジャー・ペナルティ（退場）

530条 ハイスティック：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）

c) 但し怪我をさせたハイスティックの行為が偶発的であると判断された場合、ダブル・マイナー・ペナルティ

531条 ホールディング・アン・オポーネント（相手をつかむ行為）：マイナー・ペナルティ

532条 ホールディング・ザ・スティック（スティックをつかむ行為）：マイナー・ペナルティ

533条 フッキング（相手を引っかける行為）：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）

c) 自チームのディフェンディング・ゾーンの外でパックを支配しているプレイヤーが、ゴールキーパー以外に相手プレイヤーのいない「ブレイクアウェイ」の状況で背後から引っかけられ、それによって正当な得点機を逃した場合、そのプレイヤーに：ペナルティ・ショット

註) ブレイクアウェイ：完全にパックを支配しているプレイヤーと相手ゴールキーパーとの間に相手プレイヤーのいない1対1の状態、またはゴールキーパーが氷上を退いている間はそのプレイヤーと相手ゴールとの間に相手プレイヤーのいない状態を言う。

d) 相手ゴールキーパーが氷上を退いているときに、自チームのディフェンディング・ゾーンの外でパックを支配しているプレイヤーが、相手ゴールとの間に相手プレイヤーのいない状況で引っかけられ、それによって正当な得点機を逃した場合、レフェリーは直ちにプレーを中断し、反則してないチームに：得点

534条 インターフェアランス（妨害行為）：マイナー・ペナルティ

d) ゴールキーパーが氷上を退いている間に、チーム・オフィシャルを含むそのチームのいずれかのメンバーが、スティックまたは体を使って相手プレイヤーのパックの動きを妨げた場合、レフェリーは反則してないチームに：得点 NEW

e) アタッキング・プレイヤーが相手ゴールキーパーと向き合うポジションを自ら取り、ゴール・クリーズの内側、外側に拘らず妨害することを目的にゴールキーパーの顔の前で腕またはスティックを振るような行為、プレーをしようとするゴールキーパーの気をそらす行為した場合、レフェリーは妨害したプレイヤーに：マイナーペナルティ NEW

535条 キッキング（相手を蹴る行為）：メジャー・ペナルティ（退場）

536条 ニーイング（相手をひざで蹴る行為）：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）

537条 スラッシング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）

538条 スピアリング：メジャー・ペナルティ（退場）

539条 トリップング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）

c) 自チームのディフェンディング・ゾーンの外で「パックを支配」しているプレイヤーが、ゴールキーパー以外に相手プレイヤーのいない「ブレイクアウェイ」の状況で背後から引っかけられ、それによって正当な得点機を逃した場合そのプレイヤーに：ペナルティ・ショット

d) 相手ゴールキーパーが氷上を退いているときに、自チームのディフェンディング・ゾーンの外で「パックを支配」しているプレイヤーが相手ゴールとの間に相手プレイヤーのいない状況で引っ掛けられた場合、そのチームに：得点

540条 頭部および頸部（首から上）へのチェック（体のいずれかの部分またはスティックを使った、相手選手の首から上へのチェック）：メジャー・ペナルティ（退場）

註）ゴールキーパーに対する反則

a) パックを押さえたゴールキーパーに対し、スティック等でチェックをした場合：537条 スラッシング：マイナーまたはメジャー・ペナルティ（退場）素人

b) ゴール・クリーズ内のゴールキーパーに対し、アタッキング・プレイヤーが攻撃（チェック）した場合：534条 インターフェアランス：マイナー・ペナルティ

c) ゴール・クリーズ内のゴールキーパーにアタッキング・プレイヤーが接触してしまった場合：プレーを中断し、ニュートラル・ゾーンのフェイスオフ・スポットでフェイスオフを行う。

その他のペナルティ 素人

550条 選手によるオフィシャルに対する粗暴な言動およびアン・スポーツマンライク・コンダクト（スポーツマンらしからぬ行為）

a) 選手が：

1. ペナルティを科せられた後、ペナルティ・ベンチまたは更衣室に直行しなかった場合

3. 氷上を離れている間に、何らかの方法でオフィシャルを妨害した場合

そのチームに：ベンチ・マイナー・ペナルティ

b) 選手が：

1. 試合中、オフィシャルの判定に異議を唱えたり抗議した場合

2. オフィシャルが回収しようとしているパックを故意に遠くへ打った場合

3. レフェリーがいずれかのオフィシャルに報告している間に、レフェリー・クリーズに入ったり留まった場合

その選手に：ミスコンダクト・ペナルティまたはメジャー・ペナルティ（退場）

c) 氷上にいる選手が

2. 時間を問わず、スティックその他の物でボードを叩いた場合

4. 相手に反則させるよう執拗に挑発した場合

スティックまたは用具を競技エリア外に故意に投げた場合：ミスコンダクト・ペナルティ

f) 選手が：

1. ゲーム・オフィシャルに対して、手またはスティックで故意に接触したり、つかんだり、押したり、手、スティックまたは身体でチェックしたり、トリッピング、スラッシングなどの行為をした場合

4. 氷上またはリンク内のいずれかの場所で、いずれかの人物に対してつばを吐いた場合

：メジャー・ペナルティ（退場）

g) スティックまたはその他のものをプレイヤーズベンチまたはペナルティーベンチから氷上に向けて投げた氷上外の選手が特定できる場合：メジャー・ペナルティ（退場） NEW

h) スティックまたはその他のものをプレイヤーズベンチまたはペナルティーベンチから氷上に向けて投げた氷上外の選手が特定できない場合：ベンチ・マイナー・ペナルティ NEW

551条 チーム・オフィシャルによるオフィシャルに対する粗暴な言動およびアン・スポーツマンライク・コンダクト（スポーツマンらしからぬ行為）

a) チーム・オフィシャルが：

2. その試合のオフィシャルを何らかの方法で妨害した場合
3. スティックその他の物でボードを叩いた場合

そのチームに：ベンチ・マイナー・ペナルティ

b) そのチーム・オフィシャルがその行為を執拗に続けたり、何らかの不正行為を働いた場合：メジャー・ペナルティ（退場）

d) チームオフィシャルが：

1. オフィシャルをつかんだり、殴った場合
2. 試合の運営を茶化したり、妨害した場合
4. ゲーム・オフィシャルにつばを吐きかけた場合

メジャー・ペナルティ（退場）

e) スティックまたはその他のものをプレイヤーズ・ベンチから氷上に向けて投げたチーム・オフィシャルが特定できる場合：チーム・オフィシャルはメジャー・ペナルティ（退場） チームにはベンチ・マイナー・ペナルティ

f) スティックまたはその他のものをプレイヤーズ・ベンチから氷上に向けて投げたチームオフィシャルが特定できない場合：ベンチ・マイナー・ペナルティ

554条 競技遅延

554 a) パックの動きを止める行為：警告→マイナー・ペナルティ

554 b) ゴールを動かす行為：マイナー・ペナルティ→ペナルティショット→得点

554 c) パックを競技エリアの外に出す行為（オーバーフェンスの無い部分は除く）：マイナー・ペナルティ

554 d) 用具の調節：マイナー・ペナルティ

554 e) 負傷した選手が氷上を離れることを拒否する行為：マイナー・ペナルティ

554 f) 得点後に2回以上交代する行為：ベンチ・マイナー・ペナルティ

554 g) フェイスオフの手順に反する行為：

a) フェイスオフを行うプレイヤーがオフィシャルに交代を命じられ、同じチームの別のプレイヤーが「警告」を受けた後も所定の位置につくことを遅らせた場合、そのチームに：ベンチ・マイナー・ペナルティ

b) フェイスオフを行わないプレイヤーが、パックがドロップされる前にフェイスオフ・サークルに入った場合、フェイスオフを行おうとしていたそのチームのプレイヤーが交代を命じられる。同じフェイスオフ中に2回目の違反をしたチームに：ベンチ・マイナー・ペナルティ

554 h) 選れたラインナップ：ベンチ・マイナー・ペナルティ

555条 不正または危険な用具

a) プレイヤーまたはゴールキーパーが：

1. 相手に怪我をさせ得る用具またはバイザーを着用した場合

2. 承認されていない用具を着用した場合
3. 不正または危険なスケート、スティックまたは用具を使用または着用した場合
4. グローブ、ヘルメットおよびゴールキーパーのレガースを除く用具を、完全にユニフォームの下に着用しなかった場合
5. プレイヤーが、素手が使えるように手のひらの部分をくりぬいたり切り取ったグローブをプレー中に着用した場合

その選手は氷上から出され、そのチームに「警告」が与えられる

- c) チームへの警告後、同じチームの選手が、本条項に規定される不正または危険な用具によって何らかの反則をした場合、その選手に：**ミスコンダクト・ペナルティ**

g) 氷上にいるプレイヤーのヘルメットがプレー中に脱げ、直ちにベンチに戻らなかったり、プレーを続行した場合：**マイナー・ペナルティ NEW**

556条 破損したスティック

a) スティックが破損したプレイヤーまたはゴールキーパーは、氷上に投げ入れられたスティックを受け取ることはできないが、その時氷上でチームメイトから与えられたスティックを使うことはできる。NEW

b) スティックが破損したプレイヤーまたはゴールキーパーが、破損した部分を直ちに下に落とさなかった場合：**マイナー・ペナルティ NEW**

c) プレー中断時にスティックを取り替えるためにゴールキーパーがベンチに戻り、その後試合再開のために戻った場合には、そのゴールキーパーに：**マイナー・ペナルティ**

しかし、ゴールキーパーがもう一人のキーパーと交代した場合には、ペナルティは科せられない。

d) プレー進行中は、ゴールキーパーはスティックを取り替えるためにベンチに行くことが認められる。

e) プレイヤーまたはゴールキーパーに代替りのスティックを届けている途中でプレーに参加したプレイヤーに：**マイナー・ペナルティ**

f) スティックを破損したプレイヤーが、プレー進行中にペナルティベンチにいるプレイヤーからスティックを受け取った場合、受け取ったプレイヤーに：**マイナー・ペナルティ NEW**

557条 プレイヤーがパックに覆いかぶさる行為

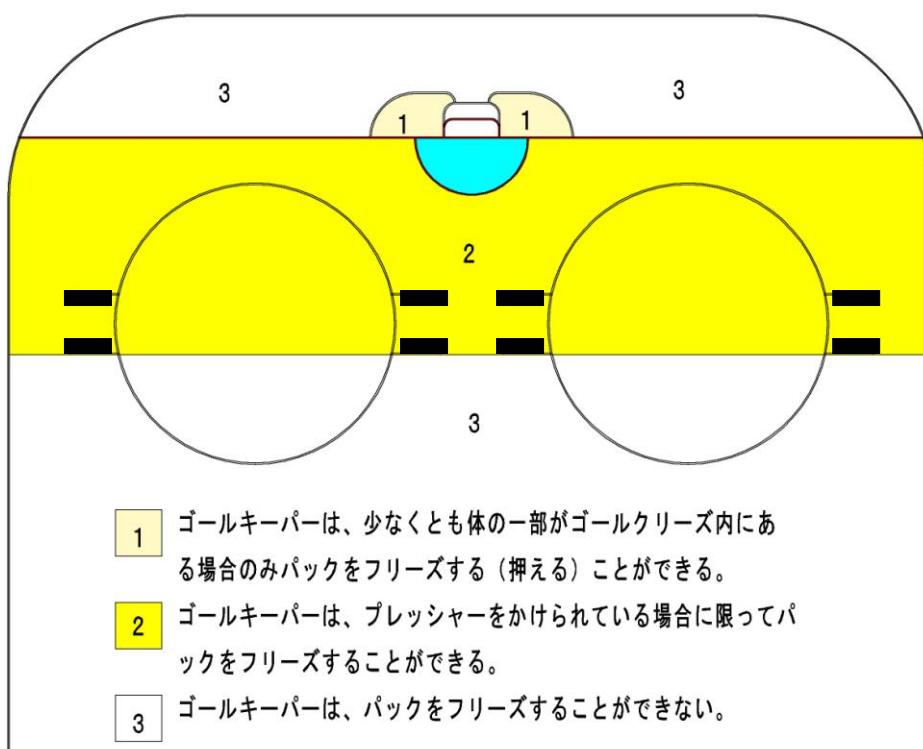
a) ゴールキーパー以外のプレイヤーが、故意にパックの上に倒れたり、パックを体の下にかき寄せたりした場合：**マイナー・ペナルティ**

b) パックが自チームのゴールクリーズ内にあるときに、ゴールキーパー以外のディフェンディング・プレイヤーが、故意にパックの上に倒れたり、パックを体の下にかき寄せたりした場合、反則していないチームに：**ペナルティ・ショット**

c) ゴールキーパーが氷上を離れ、パックがそのチームのゴールクリーズ内にあるときに、そのチームのプレイヤーが故意にパックの上に倒れたり、パックを体の下にかき寄せたりした場合、反則していないチームに：**得点**

558条 ゴールキーパーがパックに覆いかぶさる行為

- a) 身体が完全にゴールクリーズの外に出ているゴールキーパーが、パックがゴールラインの後ろ側またはフェイスオフ・サークルの両側の2本線を越えている時に、故意にパックの上に倒れたり、パックを体の下にかき寄せたり、ゴールまたはボードのどこかにパックを押し付けた場合：**マイナー・ペナルティ**
- b) ゴールキーパーがゴールラインとハッシュマーク（図を参照）の間でパックの上に覆いかぶさったりパックを体の下にかき寄せたりした場合には、プレッシャーをかけられていない限りゴールキーパーに対して：**マイナー・ペナルティ**



559条 プレイヤーがパックを手で扱う行為

a) プレイヤーは空中にあるパックを手のひらで止めたり打ったりすること、または氷上にあるパックを手を使って押し出すことは許される。但し、明らかに直接チームメイトに渡したり、ディフェンディングゾーン外で自分たちに有利になるような状況だとレフェリーが判断した場合は、プレーをストップしフェイスオフが行われる。

(490条参照) NEW

b) プレイヤーは空中のパックをつかむことができるが、直ちに氷上にパックを落とさなければならない。もし、パックをつかんだまま相手のチェックを避けたり、地域的に有利になるようにスケートした場合：**マイナーペナルティ「パックをつかんだことにより」NEW**

c) ゴールキーパー以外のプレイヤーが、氷上から手でパックを拾い上げた場合：**マイナー・ペナルティ**

d) ゴールキーパー以外のプレイヤーが、ゴールクリーズ内のパックを氷上から手で拾い上げた場合、反則してい

ないチームに：ペナルティ・ショット

e) ゴールキーパーが氷上を離れている間に上記の行為があった場合、反則してないチームに：得点

560条 ゴールキーパーがパックを手で扱う行為

a) ゴールキーパーが、プレッシャーをかけられている状態を除き、3秒以上パックを手で持った場合：マイナー・ペナルティ

b) ゴールキーパーが相手ゴールに向かってパックを投げ、そのパックを自チームのプレイヤーが最初にプレーした場合、レフェリーは直ちにプレーを中断し、エンドゾーン内フェイスオフスポットにてフェイスオフを行うものとする。NEW

c) ゴールキーパーがパックを故意に自分のパッドに入れた場合：マイナー・ペナルティ

561条 観客に危害を加える行為 観客に身体的な危害を加えた選手にレフェリーの判断で：メジャー・ペナルティ（退場）

562条 プレイヤーがペナルティ・ベンチまたはプレイヤーズ・ベンチを離れる行為

a) ピリオド終了時や通常の試合開前を除き、プレイヤーもしくはゴールキーパーは、プレイヤーズベンチまたはペナルティベンチより不当に氷上に出ることは認められない。NEW

b) ピリオド終了時を除き、ペナルティを科せられたプレイヤーが自身のペナルティタイム終了前にペナルティ・ベンチを出た場合：マイナー・ペナルティ

c) オフィシャルの判定に対して異議を述べる目的で、既にペナルティ・ベンチに入っている選手が、自身のペナルティタイム終了前にペナルティベンチを出た場合：メジャー・ペナルティ（退場）

d) いさかいの最中に最初にプレイヤーズ・ベンチまたはペナルティ・ベンチを出た選手に：メジャー・ペナルティ（退場）

e) いさかいの間にプレイヤーズ・ベンチまたはペナルティ・ベンチを出た他の選手には：ミスコンダクト・ペナルティ

f) いさかいが起き、プレーが中断している間にこの反則を犯した選手には以下のペナルティが科せられ、既に科せられているペナルティに続けて遂行される：メジャー・ペナルティ（退場）

g) プレイヤーもしくはゴールキーパーが、不当に競技に参加し進行中のプレーを妨げた場合、パックをキープしているプレイヤーとゴールキーパーとの間に反則をしたチームのプレイヤーがいない時には：ペナルティ・ショット

h) ゴールキーパーが氷上を離れている時に、プレイヤーが不正にプレーに参加し進行中のプレーを妨げた場合：得点

565条 チーム・オフィシャルがプレイヤーズ・ベンチを離れる行為

いかなるピリオドにおいても、レフェリーの許可なく氷上に入ったチーム・オフィシャルに：メジャー・ペナルティ（退場）

568条 競技エリアの外にスティックその他の物を投げる行為

スティックまたはその一部を、競技エリアの外に投げたプレイヤーまたはゴールキーパーに、レフェリーの判断で：メジャー・ペナルティ（退場）

569条 競技エリアの中でスティックその他の物を投げる行為

a) 氷上にいるプレイヤーまたはゴールキーパーもしくはベンチにいるチーム・オフィシャルが、自チームのアタッキング・ゾーンまたはニュートラル・ゾーン内で、スティックまたはその一部またはその他の物をパックまたはパックキャリアー目がけて打ったり投げたりした場合：マイナーもしくはベンチマイナーペナルティ NEW

b) 氷上にいるディフェンディング・チームのプレイヤー、ゴールキーパーまたはチーム・オフィシャルが、自チームのディフェンディング・ゾーン内で、本条 a 項に規定する行為を行った場合、反則していないチームに：ペナルティ・ショット

c) ゴールキーパーが氷上にいるか否かに関わらず、ゴールキーパーがスティックまたはその一部またはその他の物を故意にゴールの前に置き、パックがその障害物に当たった場合、反則していないチームに：得点

d) スティックまたはその一部またはその他の物が、氷上のプレイヤーまたはゴールキーパーによってはるか遠くに投げられ、打たれ、あるいは向けられた場合で、プレーを妨げることがない全然ない場合には、プレイヤーまたはゴールキーパーに対してペナルティは科せられない。

e) ゴールキーパーが氷上におらず、本条 a 項に記載されている行為が、パックを保持しているプレイヤーに対して行われた場合、反則していないチームに：得点 NEW

570条 ブレイクアウェイの場面でスティックその他の物を投げる行為

a) 自チームのディフェンディング・ゾーンの外でパックを支配し、相手ゴールキーパー以外に相手プレイヤーのいない状況にあるプレイヤーが、ディフェンディング・チームのチーム・オフィシャルを含むいずれかのメンバーが投げたり打ったりしたスティックまたはその他の物に妨害された場合、反則していないチームに：ペナルティ・ショット

b) 本条 a 項に規定される行為が、ゴールキーパーが氷上を離れている間に、自分のディフェンディング・ゾーンの外でパックを支配しているプレイヤーに対して行われた場合、反則していないチームに：得点

572条 キャプテンおよびキャプテン代行の態度

氷上にいたかあるいはプレイヤーズ・ベンチから来たかにかかわらず、キャプテンまたはキャプテン代行がペナルティに関して不平を訴えた場合：ミスコンダクト・ペナルティ

573条 トゥー・メニー・プレイヤーズ・オン・ジ・アイス

a) プレー中いかなる時も、権利のある人数より多くの選手を氷上に出したチームに：ベンチ・マイナー・ペナルティ

b) 試合終了前2分間に、故意に不正な交代が行われた場合、反則していないチームに：ペナルティ・ショット

576条 ダイビング

レフェリーの自由な裁量に基づき、その行為によってペナルティを相手選手に科してもらおうとして、目にあまる態様で転倒を装い、反応し、あるいは負傷をしたふりをする場合：**マイナー・ペナルティ**

590条 ゴールキーパーのペナルティ

ゴールキーパーのペナルティに関する手順は511条のとおり。

ゴールキーパーのペナルティは以下の条項に記載されている：

- 509条 ペナルティ・ショットの手順
- 554条 c) パックを競技エリアの外に出す行為
- 556条 破損したスティック
- 558条 パックに覆い被さる行為
- 560条 パックを手で扱う行為
- 568～570条 スティックその他の物を投げる行為

591条 ゴールキーパーがセンター・レッド・ラインを越える行為

ゴールキーパーがセンター・レッド・ラインを越えてプレーに加わった場合：**マイナー・ペナルティ**

592条 ゴールキーパーがプレー中断中にプレイヤーズ・ベンチに行く行為

交代の場合を除き、ゴールキーパーがプレー中断中にプレイヤーズ・ベンチに行った場合：**ベンチ・マイナー・ペナルティ 素人**

593条 いさかいの最中にゴールキーパーがゴール・クリーズを離れる行為

いさかいの最中にゴールキーパーが自身のクリーズ付近を離れた場合：**マイナー・ペナルティ**

594条 ゴールキーパーがゴールネットにパックをのせる行為

ゴールキーパーがプレーを中断させるためにパックをゴールネットの上ののせた場合：**マイナー・ペナルティ**

595条 ゴールキーパーの保護

- a) アタッキング側のプレイヤーがゴールキーパーと偶発的でない接触をしたときに、ゴールキーパーがゴールクリーズの内側にいた場合は、得点がされたとか否かに関係なくそのアタッキング側のプレイヤーに対して適切な**ペナルティが科せられるものとする**。
- b) ゴールキーパーは、ゴールクリーズの外側にいるからといって標的となるのではない。アタッキング側のプレイヤーがゴールキーパーに対して不必要な接触をしたときには**ペナルティが科せられるものとする**（競技規則522条参照）。アタッキング側のプレイヤーが不必要な接触を避けるような合理的な努力をしたのであれば、ゴールキーパーがゴールクリーズの外においてパックをプレーしている場合の偶発的な接触は認められる。
- c) アタッキング側の選手が、ディフェンディング側の選手によって押され、押し付けられ、あるいは倒されたこ

とがゴールキーパーと接触する原因となった場合には、もしアタッキング側のプレイヤーがゴールキーパーとの接触を避ける合理的な努力をしたのであれば、そのような接触はアタッキング側の選手からはじまったものとは考慮されない。NEW

d) ゴールキーパーがゴールクリーズの外側でパックをプレーし、アタッキング側の選手の偶発的でない行為によってクリーズ内に戻ることを妨げられた場合には、そのようなプレイヤーに対して適切なペナルティが科せられるものとする。NEW

e) ゴールキーパーはクリーズ外における自身の行為によってパックをプレーまたは相手方とプレーしようとしている選手を妨害した場合には、ペナルティが科せられるものとする。NEW

f) しかしながら、アタッキング側の選手がゴールクリーズ内に立ち止まった場合、プレーは中断されニュートラル・ゾーンのもっとも直近のフェイスオフ・スポットでフェイスオフが行われる。NEW

資格審査基準・資格審査規約・懲罰基準

青森県素人アイスホッケー協会 資格審査・懲罰委員会

改正 平成 元年 10月

改正 平成 4年 9月

改正 平成 6年 9月

改正 平成 9年 9月

改正 平成17年 2月

改正 平成22年 9月

資格審査基準

当協会主催の大会、又はこれに準ずる大会の試合参加資格保有者を、次のように定める。

第1条 いわゆる素人であり、男子は高校生を除く18歳以上、女子は中学生以上のもの。

第2条 過去において、ジュニア、中学、高校、大学、社会人リーグ、実業団リーグ又はこれらに準ずる組織に選手登録していた男子及び外国人は除く。

第3条 前条に該当する者であっても、申請により資格審査・懲罰委員会が各組織での活動内容を審査の上承認し、理事会に於いて基準以上の同意がある者。

第4条 前条の摘要を受けようとする者及び登録しようとする者については、各チームの理事が協会長へ申請書を提出しなければならない。この申請書に虚偽の記載があった場合、その選手に対して、協会三役及び資格審査・懲罰委員会合同で応分の処罰を課す。また、所属チームにも処罰を課すことがある。

第5条 前3条により資格を得たものが、資格を得た後の1年間に当協会主催の大会等の試合で、ペナルティを2回課せられた場合、又はラフプレーをした場合は、直ちに資格をはくだつするものとする。なお、一度資格を失った者は二度と得る事が出来ないものとする。

資格審査規約

第1項 基準第2条のこれらに準ずる組織とは、高校、大学、その他での愛好会、同好会又は、クラブチームを言う。

第2項 基準第3条により申請できる者の年齢は、下記のとおりとする。

1) ジュニアの組織に登録し、その後各組織でのプレー経験のない者については、20歳以上の者。

但し、学生でないものとする。

2) 中学の組織に登録し、上記同様の内容の者については、28歳以上の者。

3) 高校の組織に登録し、上記同様の内容の者については、43歳以上の者。

4) 大学以上の組織に登録し、上記同様の内容の者については、47歳以上の者。但し、過去に12年以上プレーしていない者。

- 第3項 基準第3条の理事会に於いて基準以上の同意がある者とは、理事会に於いて2/3以上の同意を得た者とする。
- 第4項 上記の年齢制限は、資格審査申請後からシーズン終了後の4月30日までの到達年齢とする。
- 第5項 基準4条に於いて、虚偽の申請のあった者については、資格を得る年齢に到達した後の、5年間は参加資格を得る事ができないものとする。
- 第6項 資格審査は、毎年前期と後期の2回実施する。前期は9月から12月まで、後期は、1月から4月までとする。
- 第7項 基準第4条の登録しようとする者とは、新人、復帰者、移籍者をいう。

懲罰基準

- 第1条 当協会の公式戦に於いて、メジャー・ペナルティ以上の反則のあった選手は又は、チームに対し懲罰を課すものとする。
- 第2条 選手又はチームへの懲罰は、資格審査・懲罰委員会と審判委員会が、その反則等を考慮の上決定する。
- 第3条 ペナルティの内容による懲罰を次のように定める。
- 1) メジャー・ペナルティの場合は、次の試合から1試合以上出場停止とする。
 - 2) 審判、競技役員への暴力行為等の場合は、次の試合から2年間以上出場停止とする。
 - 3) 不戦勝の場合のスコアは、5-0とする。
- 第4条 上記以外のペナルティ又は、予期せぬトラブルがあった場合は、資格審査・懲罰委員会と常任理事が協議の上、懲罰を決定する。
- 第5条 懲罰を課せられた選手、チームの不服の申し立ては、これを認めない。
- 第6条 大会期間中に同一選手のマイナー・ペナルティが3回となった場合、その選手は当日の試合の残り時間、及び次の試合を出場停止とする。なお、これに違反した選手及びチームに、懲罰を課すものとする。ペナルティ回数の数え方は、ダブルマイナー・ペナルティの場合は2回と数え、ベンチ・マイナー・ペナルティは回数に含めない。
- 第7条 上記における該当者は、資格審査・懲罰委員会と常任理事が協議の上、その処分を決定する。

付則 公式戦に於いて、ペナルティの有無を問わずマナーの悪い選手について、複数の対戦チームから指摘があった場合、資格審査・懲罰委員会はその内容を審議し、その指摘が正当であると認めたときは、常任理事会の承認を得て、当該選手の所属チームに対して、その善処法を勧告、指導できるものとする。